

認知症作業療法 活動報告（概要）

2019年度は、認知症の人と家族の会との連携、奈良県作業療法の日（2年に1回開催）への参画、支援委員としてRUN伴への参加など活動の幅が飛躍的に拡大した。

県士会員への啓発・教育では、認知症支援委員の活動報告(第11回奈良県作業療法学会)、認知症アップデート研修(年2回)、ステップアップ研修（年1回：GPを用いて）に加えて、今年度から医師・保健師を招いた多職種研修(年1回)を開催し、質の向上に努めている。

認知症初期集中支援事業

現在、認知症支援委員の認知症初期集中支援事業への参画は2市町村であり、支援チーム員訪問は2回、その他チーム員会議や検討委員会に複数回参加している。

認知症予防普及・啓発事業

昨年度から引き続き依頼のあった6市町村で、認知症の啓発活動や予防講座を実施した。また、本人ミーティングの運営協力や住民同士が認知症の啓発を行うための紙芝居作成（読み原稿付き）、認知症カフェ、高校生へのサポーター養成講座も継続している。

「認知症の人と家族の会」との連携

年2回の「認知症の人と家族の会の集い」に今年度から参加した。内容は「家族の集い」時間に合わせて、当事者が家族と離れても不安なく、有意義な時間を過ごすように、集団プログラム（聴覚クイズ・物品回想・体操・歌）を実施した。また、同会の宿泊研修交流会(年1回)にも参加し、『作業療法の仕事』をテーマに研修を行った。



作業療法の日（2019.10.13）

県内で2年に1回開催される作業療法の日では、『認知症は脳の病気 今からできる予防が大切！』というテーマで一般市民に向けに講演とコグニサイズの実演を行った。参加者には、認知症予防のワンポイント入り反射板を配り、運動継続を推奨した。



RUN伴（2019.10.20）

RUN伴(大淀町)に認知症支援員チームとして初めて参加した。

今後の展開

- ・ 他職種・市町村・家族の会への啓発と協力の継続・体制強化
- ・ 認知症サポーター養成講座の協力とチームオレンジへの参画
- ・ 認知症初期集中支援事業や認知症カフェ事業への参画を継続
- ・ 県士会員への教育目標の制定(認定制度の導入検討)